

# 状況記録写真

区分	自主
----	----

森林技術センター

(様式6)



No.3



No.4



No.1

平成10年度251る5天下 I 類除伐実行後



No.2



# 状況記録写真

区分	自主
----	----

森林技術センター

(様式6)



無除伐プロット



平成10年度251る5天下I類除伐実行後



イヌマキ母樹



# 技術開発実施報告・計画

森林技術センター

様式 2

課題	13 天然林における有用樹種の育成技術の確立 (更新～保育)	継続 新規	担当	森林技術 センター (業務第I係)	開発 箇所	青井岳国有林 1251る林小班			
目的	シイ類、カシ類を主とする天然林伐採地において、地かき、ぼう芽、天然下種更新及び種子の播種等の更新技術及び除伐技術の解明を図り天然林伐採跡地における有用広葉樹造成を目指した天然林施業技術(更新～保育)を確立する。	開発期間		平成 8 年度 ～ 平成 60 年度					
年度別実施経過	13年度実施報告		年度実施計画						
	実施内容	備考 (評価及び普及指導)		経費科目					
平成8年度 1, 試験地設定(樹種・樹高・径級) 2, 地かき 3, 種子の播種 4, 写真記録 5, 試験地表示  平成9年度 1, 試験地内調査 (樹種・樹高・径級)(有用樹の発生調査) 2, 写真記録  平成10年度 1, ぼう芽かき 2, 写真記録 3, 試験地内調査(//) 4, 除伐	1, 試験地管理 (5月) 人工数: 1.500人	試験地へ行く歩道の整備(草払)を実施する。					内 訳	物件費	数量
				役務費					
				人件費	基職	( )人			
				臨時		人			
				計		( )			千円

- (注) 1 課題欄には、技術開発課題名に番号を付して記入する。  
 2 実施報告欄には、当該年度の開発成果を記入する。  
 3 備考欄には、開発成果の評価等について記入する。

# 技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課 題	13 天然林における有用樹種の育成技術の確立（更新～保育）				開 発 期 間	平成8年度 ～ 平成60年度			
開 発 箇 所	青井岳国有林 1251る5林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機	技 術 開 発 目 標	3	特 定 区 域 内	特 定 区 域 外	○
開 発 目 的 (数 値 目 的)	シイ類、カシ類を主とする天然林伐採地において、地かき、ぼう芽、天然下種更新及び種子の播種等の更新技術及び除伐技術の解明を図り天然林伐採跡地における有用広葉樹造成を目指した天然林施業技術（更新～保育）を確立する。								
年 度 別 実 施 報 告	15年度 実 施 報 告					16年度 実 施 計 画 書			
	実 施 内 容					普 及 指 導			
平成8年度 ①試験地設定（樹種・樹高・径級） ②地かき③種子の播種④写真記録 ⑤試験地表示 平成9年度 ①試験地内調査（樹種・樹高・径級）（有用樹の発生調査）②写真記録 平成10年度 ①ぼう芽かき②写真記録③試験地内調査（ 〃 ）④除伐	1, 試験地調査 平成16年3月 野帳別途保管 人工数： 7.000 人					実施結果 播種の効果は明確ではないが、萌芽・天然下種による更新が完了している。生育も順調であるが、隣接地に鹿の剥皮被害が多く、今後被害の拡大が懸念される。			
技術開発委員会における意見									

- (注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。  
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。  
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。  
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。

# 試験経過記録

区分	自主課題
----	------

森林技術センター

(様式3-1)

平成10年度実施内容

- 1, 萌芽芽かき  
萌芽の多いものは、10本以上の株立ちになっているものがある。形状・大きさ等を判断した優良木1~3本を残し芽かきを実施した。
- 2, 写真記録  
写真記録台帳に整理
- 3, 試験地内調査  
調査野帳別途保管
  - (1) かきおこし区  
カラスザンショウ・クサギ等の先駆性樹種が多いがカシ・シイ・タブノキ・イスノキ等の有用広葉樹33本が発生している。
  - (2) 播種区  
カシ・シイ・タブノキ・ミズキ等の有用広葉樹62本を確認した。
  - (3) 萌芽, 天然下種更新区  
無施業対照プロットを含めた5プロットとも50本以上の有用広葉樹を確認した。
- 4, 除伐  
アカメガシワ・クサギ・カラスザンショウ等の除伐を実施した。対照区とした無施業プロット10m×10m2箇所を設置し今後の生長比較を継続実施する計画である。

## 考察

前年度調査では、播種の効果が認められず、萌芽・天然下種による有用広葉樹の発生も少数であったが、本年度の調査で天然更新のめどがついたと判断している。

平成13年度実施内容

- 1, 試験地管理 (5月)  
人工数: 1.500人

## 考察

当分の間(平成15年度)調査等はないが、試験地の管理に必要なため、試験地へ行く歩道の整備及び草払いを実施した。

平成15年度実施内容 -

- 1, 試験地調査 平成16年3月 野帳別途保管  
人工数: 7.000人

## 考察

播種の効果は明確ではないが、萌芽・天然下種による更新が完了している。生育も順調であるが、隣接地に鹿の剥皮被害が多く、今後被害の拡大が懸念される。

- 記載要領
- 1 調査結果及び考察を記入する。
  - 2 状況写真は別途整理する。

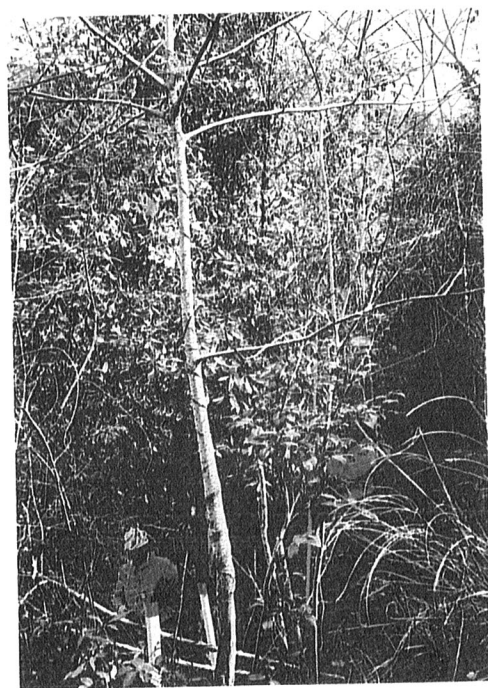


# 状況記録写真

区分	自主
----	----

森林技術センター

(様式6)



播種区の生長量調査状況

H16.3.2 撮影

# 技術開発実施報告・計画

森林技術センター

様式 2

課 題	13 天然林における有用樹種の育成技術の確立（更新～保育）				開 発 期 間	平成8年度～平成60年度		
開 発 箇 所	青井岳国有林 1251る <sup>ろ</sup> 林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機	技 術 開 発 目 標	1	特 定 区 域 内	○
開 発 目 的 (数 値 目 的)	シイ類、カシ類を主とする天然林伐採地において、地かき、ぼう芽、天然下種更新及び種子の播種等の更新技術及び除伐技術の解明を図り天然林伐採跡地における有用広葉樹造成を目指した天然林施業技術（更新～保育）を確立する。							
年 度 別 実 施 報 告	16年度 実 施 報 告				17年度 実 施 計 画 書			
	実 施 内 容		普 及 指 導		1 試験地管理			
平成8年度 ①試験地設定（樹種・樹高・径級） ②地かき③種子の播種④写真記録 ⑤試験地表示 平成9年度 ①試験地内調査（樹種・樹高・径級）（有用樹の発生調査）②写真記録 平成10年度 ①ぼう芽かき②写真記録③試験地内調査（ <sup>ル</sup> ）④除伐 平成15年度 ①試験地調査	実施事項なし		生育樹種が固定してきているので、課題目的の成果をまとめる必要がある。					
技術開発委員会における意見								

- (注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。  
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。  
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。  
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。